

献辞

安西敏三先生は、二〇一七年三月をもって、定年により甲南大学を退職されることになりました。先生は、一九四八年十一月十二日に愛知県でお生まれになり、一九七二年三月に学習院大学法学部を卒業後、慶應義塾大学院法学研究科修士課程および博士課程に進まれ、一九八二年四月に本学部助教任に着任され、一九八六年四月から教授を務められました。本学部着任以来三五年間にわたり、日本政治思想史の研究・教育に研鑽をつまれば、二〇〇二年には甲南学園より永年勤続表彰（二〇〇年表彰）を受けられました。

安西先生は、本学においてはご専門の「日本政治思想史」の講義・演習のほか、法学部新入生のための「政治学入門」、全学を対象とする特設科目の「甲南大学と平生夙三郎」等も担当され、法学部のみならず、全学的な教育の実践に貢献され、多くの有為な青年を社会に送り出してこられました。

先生は、法学部にあつては、法学科主任（改組前：二〇〇〇年および〇三年からそれぞれ一年間）および法学部長（〇一年から一年間）を、全学的には、広域副専攻センター所長（〇〇年度）や総合研究所所長（〇二年から四年間および〇八年から二年間）を、また、その他多くの学内委員を務められるなど、法学部および大学運営に尽力されました。

安西先生の研究は、単著として『福沢諭吉と西欧思想―自然法・功利主義・進化論―』（一九九五年、名古屋大学出版会）および『福澤諭吉と自由主義―個人・自治・国体―』（二〇〇七年、慶應義塾大学出版会）にまとめられています。書名から推察されるとおり、先生は、福沢諭吉に焦点をあてて、西欧政治思想と日本のそれとの交

錯における政治思想史研究を進めてこられました。

先生の研究において特筆されるべき点は、スペンサーやミル、ブラックストン、ギゾーやトクヴィル等の著作（福沢の手沢本）への福沢自身の書き込みや不審紙の貼付箇所に着目して、福沢の思想形成を丹念に探求されたその手法にあるといえるでありましょう。その研究は、「福沢の思想形成の現場を再現」しようとして「新たな比較思想史の次元を開いた」（坂本多加雄『図書新聞』一二二五〇号）ものであり、「日本に限らず、東アジアの『近代』を思索する」うえで大きな示唆を与える貴重な研究（李暁東『福澤論吉年鑑』三五号）であると評価されています。この研究成果は、現在も続行中の『平生鈔三郎日記』の刊行における安西先生の多大な貢献にも生かされているのでありましょう。

このたび、甲南大学法学会は、安西先生の多年にわたる学内外の功績と学問研究に感謝と敬意を込めて、『甲南法学』の本号を記念号として献呈させていただきます。先生が、今後とも、ご健康を維持され、諸分野で活躍されますことを、心よりお祈りいたします。

甲南大学法学部長

武井 寛